

<熊本支部例会事前抄録>

日時：2020年7月28日(火)19:30～

会場：ZOOM

- 一般講演抄録 2

上顎中切歯歯根破折歯の Interdisciplinary approach 症例 ～B.O.P.T.の併用～

齋藤 誠 さいとう歯科医院 〒693-0024 島根県出雲市塩冶神前 6-4-9

TEL:0853-22-4180 FAX:0853-24-1675

【広島支部】

■ 抄録

緒言：上顎前突の外傷リスクを低減するために、矯正治療が推奨されている。今回、#11 歯根破折歯の治療に際して、外科矯正治療を行い、歯頸ラインを B.O.P.T.で整えた症例を経験し知見を得たので報告する。

初診：2016年7月 患者：40歳代、女性 主訴：#11 歯肉が腫れてきた。

現病歴と治療結果：#11 は4ヶ月前に冠脱落して他院で再着したが、腫れてきたので当院初診となった。歯根斜破折していた破折片を口腔内で接着した。オーバージェットが6mm以上あったため、同年9月歯のポジションの改善目的で矯正歯科に紹介した。同年10月に口腔外科を紹介受診した。小白歯4本抜歯して術前矯正後、2019年2月両側下顎枝矢状分割術にてオーバージェットの改善を得た。同年11月より当院にて#11の歯頸ラインが上がっていたため、動揺破折片除去後、B.O.P.T.を用いて両側中切歯の歯頸ラインを揃えてジルコニアクラウンで歯冠補綴した。

考察と結論：力のコントロールのベースとなる歯のポジションを改善することで、補綴治療の選択肢が増えたとともに予後の予知性が向上した。Interdisciplinary approach が患者に満足する治療結果をもたらした。歯頸ラインの改善に、術式のシンプルな B.O.P.T.が有効だった。

本発表に関する利益相反はない。